

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 27日は、日本の東の高気圧は日本のはるか東へ進み、低気圧が本州南岸を東進する。
- 28日は、低気圧は日本の東へ進み、前線が日本の南から東シナ海にのびる。
- 29日は、高気圧が北日本付近を通過する。前線は日本の南に停滞する。
- 30日は、高気圧は日本のはるか東へ進む。別の高気圧が朝鮮半島付近へ進み、日本付近は気圧の谷となる。華南から東シナ海へ前線がのびる。
- 5月1日は、低気圧が東シナ海に進み、前線が西日本付近へのびる。

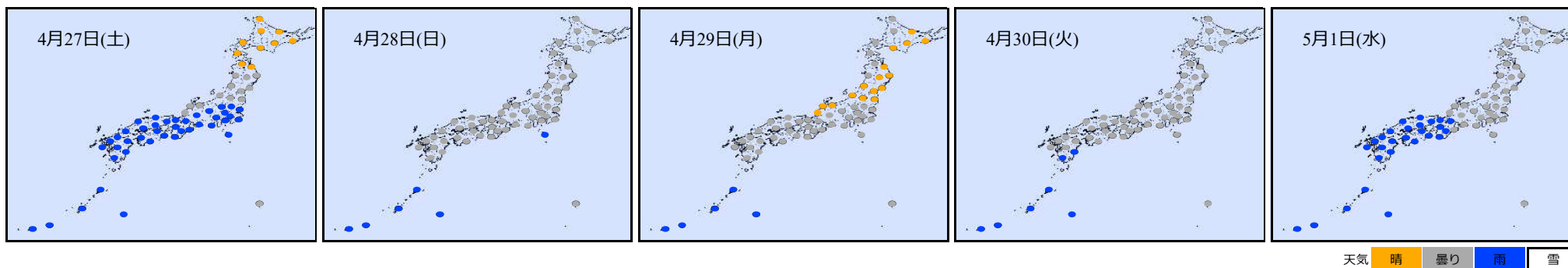
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 27日にかけては、暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては、沖縄地方では警報級の大雨となるおそれがある。
- 期間の中頃にかけては、気温は平年より高い日が多く、かなり高くなる所もある。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

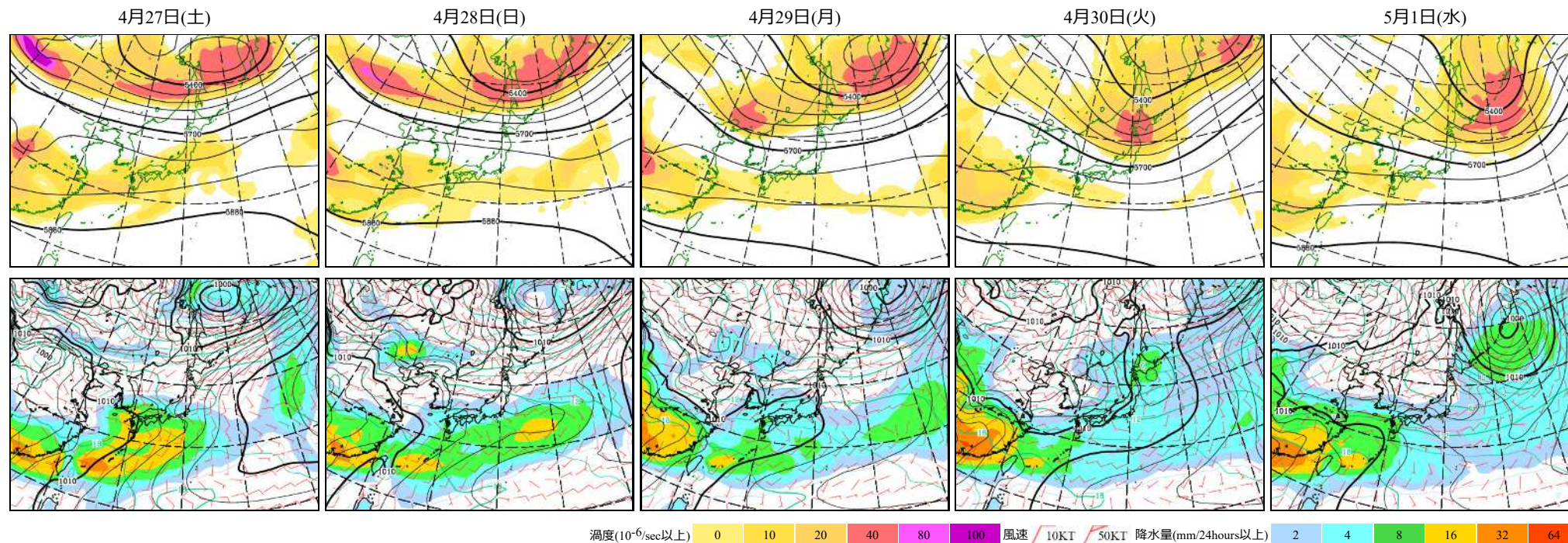
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



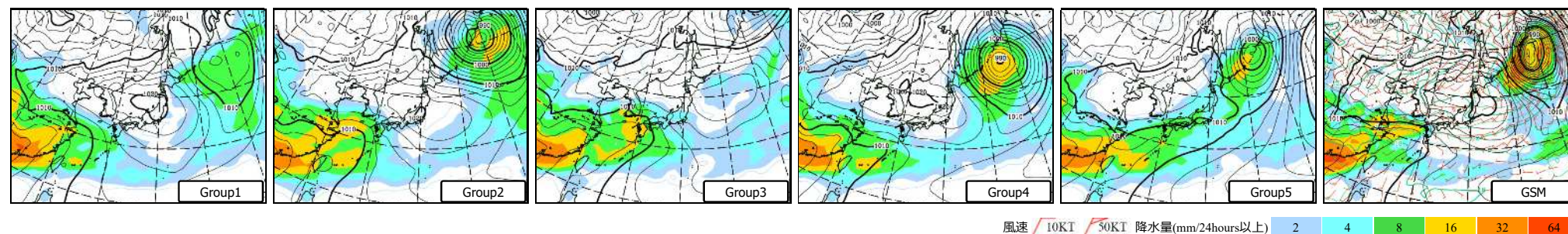
- 北日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 東日本は、期間を通して雲が広がりやすく、27日は雨の降る所が多い。
- 西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雨の降る日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日と29~30日に日本付近を通過するトラフが浅くなった。これに対応して、27日に本州南岸を東進する低気圧がやや不明瞭となり、29~30日に北日本付近を通過する気圧の谷が不明瞭となった。
- 29日以降は、引き続きモデル間の差が大きい。GSMとNCEPは初期値変わりが大きいことから、予想が安定しているECMを参考にする。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 28日までは、おおむね最新のENSを基に予報を考える。29日以降は、各単独モデルの予想を参考に、29日と30日は、北日本~西日本の降水域を割り引き、5月1日は西日本全域に降水域を広げて考える。